

11/16 Sa. Nr. 120A

<編集部にて>の訳

- W: マイアー君、今回はバイエルンの景観についての記事を書きましょう。アルプスとかバイエルンの湖とか。あなた、それについてよくわかってるかしら？
- M: いいえ、そんなには。一度行ってみなきやいけませんね。
- W: そうね、じゃあ楽しんで泳いだり、ヨットに乗ったりできるのよ。
- M: 湖ではほんとに気持ちよく泳いだり、ヨットに乗ったりできるのよ。
- M: わかりました。どうぞよい一日を、ヴェルナー編集長。ほく、すぐに出かけます。
- W: で、何か見つかった、マイアー君？
- M: 旅行はすばらしいものでした！ まず最初にツークシュピツェに登ったんです。標高2,962mでドイツの最高峰。
- W: 標高2,962mのツークシュピツェ。それで？
- M: アプト式鉄道(蘭車を引っかけながら登る登山鉄道)を使えば、快適に上まで行けるんです。そこからアルプスを望む眺めは、とにかく素晴らしい！ それから、キーム湖に行きました。
- W: キーム湖は、バイエルンで一番大きな湖ね。
- M: そのたたずまいがまたすばらしい。見通しがよければ、アルプスを見ることもできるんです。ほんのちよっとだけ水浴びをして、湖畔にあるホテルでおいしいものを食べ、それからさらにケーニヒ湖に足を伸ばしました。
- W: マイアー君、夢中になって話してないで、記事に関する情報が必要なのよ。どんな有名な湖があるかとか、他に何が見られるかとか、風景がどんな様子かとか。
- M: そうですね、バイエルンは今もお、農業がさかんな州です。いたるところに草原が広がり、牧草地には牛も見えます。アルムと呼ばれるアルプスの高原放牧地にだってたくさんさんの牛がいますし、チーズ製造所もあるんです。ここではチーズがまだ手作りされています。なぜなら、そこまで牛乳を取りに行けないからです。大きな道路がないこともしばしばで、ハイキング用の小さな道を歩いていくことになります。
- W: そうね、とても緑豊かな景観で、草原があり、牛たちがいて、それに農場もある。それから、伝統的な「Almbtrieb(アルムの牛追い)」についても耳にしたかしら？
- M: もちろん。今は秋だから、牛が再び谷間へと連れて行かれます。その際、とても賑やかで伝統的なお祭りが開かれるんです。

W: もう山の夜はしだいに寒くなっていくし、牛も谷間の牛小屋に戻されなきゃならないわけね。ところで、ハイカーや旅行者もたくさん訪れるの？

M: ええ、もちろん。でも団体で押しかける観光というよりは、むしろ自然に関心を持った休暇滞在型の旅行者が多いですね。

W: なるほどね、自然を壊さないやさしくソフトな観光というわけね。

<雑誌記事>の訳

バイエルンの景観

バイエルンは、印象的な自然の美しさを持った州です。

2,962mの高さを誇るドイツの最高峰ツークシュピツェを擁するアルプス、キーム湖やケーニヒ湖といった湖のあるアルプス前山地域、国立公園のあるバイエルンの森、そしてまた、さらに多くの地域が、自然体験の機会と比類のない観光の魅力を提供してくれているのです。湖は、訪れる人をあらゆるウォータースポーツへと誘います。山はハイキングに、冬になるとスキニーに、そして他のいろいろなウインタースポーツへと招きます。

バイエルンを乗り物で行くと、緑の草原やまだ覆されないうで完全な形で残っている田園地域を通ります。道ばたでは、牛を見ることができず、またアルプス前山地域では、しばしばもう何世紀にもわたってそこに残っているような大きな農場を見ることもできます。

バイエルンほど習俗に価値が置かれている地域は、ドイツのどこにもありません。民族衣装が着られるのも、大きな祝祭の日だけではいけません。

古い伝統的な風習は、愛情を持って非常に熱心に守られています。たとえば、「アルムの牛追い」という伝統がありますが、これは秋になると牛に盛装させて谷間の牛小屋へ連れていく、というものです。あるいはまた、行列が練り歩くことで祝われる教会のお祭りや、オーバーアママーガウで行われる復活祭受難劇のような祝祭劇もあります。この受難劇は、1634年(1)以来、10年ごとに開催され、世界中の旅行者を惹きつけています。(トーマス・マイアー)